日経産業新聞　2010年（平成22年）7月14日（水曜日）

中小・ベンチャー

VB 仕掛け人

広島市中小企業支援センター所長　藤田　進氏

女性の起業、総合的に支援

中小企業の経営や創業を支援する広島市中小企業支援センターは、女性の創業支援事業に力を入れ成果を上げている。資金や経営面だけでなく、精神面のケアも含めたパッケージ型支援で女性起業家を後押しする。藤田進所長に取り組みの進ちょく状況を聞いた。

――女性の起業支援に力を入れている。

「女性と満50歳以上のシニアを対象に、資金や経営面など総合的なメニューを組み合わせたパッケージ型の支援制度を設けている。申請を採択すると限度額100万円の補助金を出すほか、2年間にわたり月1回経営アドバイザーを派遣する。さらに1000万円以内の無担保の低利融資も受けられるという内容だ」

――これまでの成果は。

「2004年度以降、女性23人とシニア5人の計28人が起業した。業種は飲食業や育児・介護、環境関連など多岐にわたる。女性は資金面や経営ノウハウの取得、人脈づくりなどの面で創業へのハードルが高い場合が多いが、支援を生かすことで女性ならではのアイデアを事業化につなげているケースが多い」

――今後の課題は。

「09年度までは女性起業家とその卵で、体験を語ったり意見を交換をしたりするサロンを開いていたが、『実際のビジネスの世界では女性だけというわけにいかない』という声も出ていた。今年度は男性の起業家も招いたフォーラムを開き、男女の枠を超えて情報共有や人脈作りの場として活用できるようにする」

――今後の課題は。

「若者の創業支援の促進も進めたい。広島市は製造業などで大企業も多いため若年層にも『寄らば大樹』という考えが根強いが、すそ野を支える中小企業をきちんと育てなくてはいけない。今年度は平日の夜に気軽に参加して創業ノウハウを学べる『ワンコインセミナー』を始める。今後も支援のメニューを充実させていきたい」

（広島支局　児玉小百合）

ふじた・すすむ　1954年（昭29年）広島県生まれ。78年広島工業大工学部卒、広島市役所入庁。85年から6年間、支援センターの前身である中小企業指導センターに勤務。市民病院の経営改善も担当し、2004年から現職。